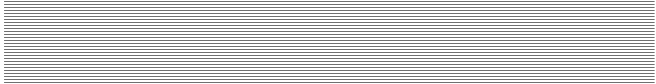


## 第75回 常設展示



A N N A P A V L O V A

# アンナ・パヴロワ


## —世界を魅了した“瀕死の白鳥”—

平成8年10月29日～11月22日


---

アンナ・パヴロワ(Anna Pavlova 1881～1931)。この名前は、世界中のバレエを愛する人々の心の中に、美しい幻のように、今なお忘れがたく刻み付けられています。1914年に母国ロシアを離れて以来、当時としては驚異的な旅程で世界各地を巡演して、あらゆる大陸にその芸術を普及し、バレエの伝道者としての役割を果たしました。1922年(大正11年)のパヴロワ・バレエ団の来日は、大センセーションをもって迎えられ、絶品といわれる“瀕死の白鳥”等の踊りに多くの日本人が涙しました。そして、この国にも、パヴロワの蒔いた種が確実に芽吹いてゆくのです…。

今回の展示では、日本にも関わりの深い、伝説のバレリーナの生涯をたどります。



### 展示資料一覧



<>内は当館請求記号

[アンナ・パヴロワ —バレエに捧げた生涯—]

#### 1. 瀕死の白鳥 アンナ・パヴロヴァの生涯

小倉重夫編著

<KD382-2>

東京 富山房 1978.1 368p

【プリマ・バレリーナの栄光】

1899年、ロシアの帝室バレエ団(マリンスキー劇場)に入団したパヴロワは、その4年後には早くも“ジゼル”の主役に抜擢され、大成功を収めた。やがて、自らバレエ団を結成し、世界の人々に感動を与えて、不世出のバレリーナとしての名声を博する。

#### 2. アンナ・パヴロワ

二見孝平訳編

<513-25>

東京 アルス 1922.9 59p

大正11年、パヴロワの来日に合わせて刊行されたもの。パヴロワの舞踊について海外の論文等を訳纂して紹介している。写真は“バックナール”を踊るパヴロワとパートナーのノヴィコフ。

### 3. Anna Pavlowa

矢吹時中編

<422-97>

東京 矢吹高尚堂 1922.9

来日時に刊行された写真集。“とんぼ”を踊るパヴロワ。

### 4. 瀕死の白鳥 アンナ・パヴロヴァ自伝

アンナ・パヴロヴァ著 尾崎宏次訳

<766.6-P28ウ>

東京 丹青書房 1943 219p

原書はドイツ語の“Tanzende Füesse”(1928年)。バレエにけるパヴロワの情熱が綴られている。

### 5. アンナ・パヴロワ

エミーリ・ロチャヌー映画脚本 葉月香織訳

<Y82-9780>

東京 集英社 1984.10 223p

(集英社文庫 コバルトY. A. シリーズ)

旧ソ連・英国の合作映画『アンナ・パヴロワ』(1983年)の小説化。映画では、パヴロワ役をガリーナ・ベリャーエワが演じている。

### 6. アンナ・パヴロヴァ 白鳥よ、永遠に

マーゴ・フォンテーン著 湯河京子訳

<KD382-22>

東京 文化出版局 1986.8 158p

Pavlova impressions.の翻訳

【アイビー・ハウスにてくつろぐパヴロワ】

終のすみかとなった、ロンドン郊外にある「アイビー・ハウス(きづたの家)」は、パヴロワにとって、安息を得られる唯一の場所であった。また、庭の湖にはペットの白鳥を飼い、日常的にその優雅な動きを観察していたといわれる。

### 7. 白鳥の湖

マルヴェルン著 青柳健訳

<766.6-cM26h-A>

東京 三笠書房 1965 253p

【“瀕死の白鳥”の誕生】

サン＝サーンスの「白鳥」(『動物の謝肉祭』)の音楽にのせて踊られる“瀕死の白鳥”は、ミハイル・フォーキンがパヴロワのために振付をした作品。初演は1905年、サンクトペテルブルク劇

場である。パヴロワは、自分の代名詞ともなったこの作品を愛した。亡くなる直前、最後に「白鳥の衣装を持ってきて」と囁いたという逸話が残っているほどである。

## 8. ディアギレフ ロシア・バレエ団とその時代 上

リチャード・バックル著 鈴木晶訳

<KD382-15>

東京 リブレポート 1983.5 369p

Diaghilev.の翻訳

【ディアギレフとの出会いと別れ】

20世紀初頭のヨーロッパを風靡したロシア・バレエ団。パヴロワも1909年のパリ公演に参加し、華やかなデビューを飾ったが、主宰者ディアギレフと方針が合わず、まもなく彼と訣別する。

### [アンナ・パヴロワの来日]

アンナ・パヴロワの一団は、1922年、最初のアジア巡演に出発し、日本、中国、インド、エジプトを目指した。9月4日、エムプレス・オブ・カナダ号で横浜に到着、9月10日から29日まで帝国劇場で公演を行い、その後は京都、神戸、広島、博多等々で踊った。

パヴロワは、日本はもとより、行く先々の舞踊界に大きな影響を与えている。彼女に次ぐ世代の踊り手には、パヴロワを見たことによって舞踊を始めたというものが多い。

## 9. 読売新聞

大正11年9月5日 ※この資料はマイクロフィルムでのご利用になります。<YB-41>

読売新聞東京本社

訪日の模様は、翌日、各紙によって報じられた。

## 10. 露西亜舞踊の印象

芥川龍之介著

<雑35-60>

新演芸 玄文社 7巻10号 1922.10 pp.58-60

芥川は、パヴロワを「骨無し」で「グロテスク」と評したものの、「瀕死の白鳥」には感動したらしく、「僕は兎に角美しいものを見た」と、その印象を記している。

## 11. 私の舞踊家手帖① アンナ・パヴロワ

淀川長治著

<Z11-1939>

Dance magazine 新書館 1995年1月号 pp.78-81

神戸の聚楽館での公演を見ていた13才の著者は、「瀕死の白鳥」に、ハンカチを「咽喉につめこむほど涙を落として泣いた」。また、「一階二階三階すべての席がシーンとなった」と、客席の感動を伝えている。

12. 舞踊と身体

蘆原英了著

<KD363-7>

東京 新宿書房 1986.4 343p

当時中学3年生であった蘆原英了は、帝国劇場の四等席からパヴロワを見ていた。この一夜をきっかけに、舞踊研究の道へと進むことになる。

13. My years with Pavlova

by Harcourt Algeranoff

<927.928-P338a>

London, William Heinemann, 1957

著者アルジェラノフは、来日したパヴロワ・バレエ団の一員であった。

14. 舞踊の美学的研究

小寺融吉著

<KD362-3>

東京 国書刊行会 1974 339p

春陽堂昭和3年刊の複製

パヴロワ自身の舞踊について、「日本の舞踊に大に缺乏するところの、美と力とを我々の前に示した」と述べている。著者は、日本における舞踊研究の礎を築いた人物である。

[日本にバレエを伝えた3人の“パヴロワ”]

日本のバレエの黎明期に影響をもった女性が3人おり、不思議なことに、3人とも名前がパヴロワであった。アンナ・パヴロワと、1921年にロシア革命から逃れて亡命したエリアナ・パヴロバ(1897～1941)、そして、日本人の外交官と結婚し、1936年に来日したオリガ・サファイア(本名オリガ・イワーノブナ・パヴロワ 1907～1980)である。

15. 七里ヶ浜パヴロバ館 日本に亡命したバレリーナ

白浜研一郎著

<KD374-14>

東京 文園社 1986.11 275p

母親と妹を伴って来日したエリアナ・パヴロバは、苦労を重ねて鎌倉七里ヶ浜に稽古場を開いた。アンナ・パヴロワと名前が似ていることから、エリアナのことも広く知られるようになり、当時、バレエを学ぼうとするものは皆、彼女の門下に参加したという。(本名は、エリアナ・トゥマノフであったという説もある。)

16. バレエ読本

オリガ・サファイア著

<KD385-36>

東京 霞ヶ関出版 1980.6 333p

昭和30年刊の改訂複製

オリガ・パヴロワは、レニングラードの国立舞踊学校の出身であり、正統的なクラシック・バレエ教師として日劇ダンシングチームの指導にあたった。日本にはすでにアンナ、エリアナの二人のパヴロワの名前が知られていたため、混同を避けるため、オリガ・サファイアと名乗った。本書では、「日本人にバレエは可能か？」などについて論じている。

…蘆原英了コレクションから…

[アンナ・パヴロワ伝の数々]

蘆原英了コレクションとは、バレエ評論家、音楽評論家として知られた蘆原英了(1907～1981)の旧蔵書と収集品です。支部上野図書館で所蔵しており、内容は、バレエ・シャンソン・演劇・サーカス等に関する洋書のほか、レコード、楽譜など実に多様です。目録は『国立国会図書館所蔵蘆原英了コレクション目録』第1～4巻があります。

なお、支部上野図書館は、施設改修工事のため平成9年3月末(予定)まで休館中です。蘆原英了コレクションについてもサービスを休止しておりますので、ご了承ください。同コレクションについては、平成9年4月以降予約出納制による利用の再開を予定しております。

(お問い合わせ先：支部上野図書館 03-3821-3786)

《 》内は蘆原英了コレクションの請求記号

17. Anna Pavlova

V. Dandré.

《VA31-P3-8》

London, Cassell, 1932.

著者ダンドレは、パヴロワの夫であり、同時に、マネージャーでもあった。

18. Anna Pavlova

V. Svetloff, translated from the Russian by A. Grey.

《VA31-P3-6》

New York, Dover Publications, 1974.

19. Pavlova ; the genius of dance

by Walford Hyden.

《VA31-P3-16》

London, Constable, 1931.

20. Anna Pavlova

Oleg Kerensky.

《VA31-P3-2》

New York, E. P. Dutton, 1973.

21. Anna Pavlova

by Cyril W. Beaumont.

《VA31-P3-1》

London, C. W. Beaumont, 1932.

22. Pavlova ; an illustrated monograph

edited by Paul Magriel.

《VA31-P3-15》

New York, Henry Holt, 1947.

23. Pavlova ; a biography

edited by A. H. Franks, in collaboration with members of the Pavlova  
Commemoration Committee.

《VA31-P3-14》

London, Burke, 1956.

24. Anna Pavlova

André Levinson.

《VA31-P3-4》

Paris, Grjébine et Vishgnak, 1928.

25. アンナ・パヴロワの来日公演プログラム

2種類

《VA251-1027》《VA251-1028》

1922.9

◎請求記号が YB ではじまる資料は、マイクロ資料でのご利用になりますので、展示期間中  
でもご利用になれます。

国立国会図書館 03-3581-2331(代)

ホームページアドレス <http://www.ndl.go.jp>

■国立国会図書館 ■□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□■03(3581)2331 ■